

<p>コース名 実践にいきる記録の書き方講座</p>	<p>2018年度回数 全3日5コマ</p>	<p>担当者 富井奈菜実・竹澤清</p>
<p><b>目的</b></p> <p>実践記録は「客観的事実を正確に書き写した」ものではない。そこには子どもや仲間の多様な姿や実践に込められた実践者の思いが綴られている。実践記録を書くことによって、私たちは子どもや仲間たちの姿に潜んだ思いを発見することができ、そこで繰り広げられた実践の意図を深く自覚することになる。それは、次なる実践の方向性を定めることにも繋がる重要なプロセスでもある。</p> <p>とはいえ、実践記録を書こうとするとき、そもそもどんな実践について書けばよいのか、題材選びから悩むことになる。まず大切になるのは実践を通して見せる子どもの姿に実践者なりの意味づけがなされ、そのような姿を導いた実践自体への面白さや価値に気づくことである。さらに、その姿や場面をどのように表現するのか、目にした現象を実践者なりの“言葉”で語る力が必要になる。</p> <p>本講座では実践記録を書く上で必要となる「子どもや仲間の姿の見方、語り方、意味づけ方」を自分なりに見つけていくとともに、それをどのように実践記録としてまとめていけば良いのかについて学ぶことを目的とする。</p>		
<p><b>到達目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもや仲間の姿について多様な見方、考え方を発見する</li> <li>2. 子どもや仲間の姿や取り組みを表現する自分なりの“言葉”を見つける</li> <li>3. 自分の実践の中から、方向性を選んで文章化できる</li> <li>4. 実践記録から自らの実践の意義や課題を確かめることができる</li> </ol>		
<p><b>授業計画（内容と方法）</b></p> <p>&lt;1日目（1, 2コマ）&gt; 全日（担当：富井他）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 映像を視聴して、グループディスカッションをおこなう <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ウォームアップ</li> <li>・ 子どもや仲間の姿について多様な見方、考え方があることを知る</li> </ul> </li> <li>② 実践記録につなげるための事例検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団で気づいたことを出し合う、好きなことを言い合うことの楽しさを味わう</li> <li>・ 自分たちの実践を言葉にしなが、子どもや仲間の姿、実践の面白さを発見する</li> <li>・ 出てきた多様な意見から、実践記録に向けて、どれをどのような方向性として取りだしていくのか考える（基準、意図性、テーマなどを絞っていく）</li> </ul> </li> </ol> <p>&lt;2日目（3, 4コマ）&gt; 全日（担当：竹澤）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 実践記録をいくつか読んでみる</li> <li>② 実践記録を書く上での課題を考える <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実践の方向性</li> <li>・ 事実の切り取り方…事実とデータの区別</li> <li>・ 意味づけ…集団の力を借りる、分かる・分かりやすい実践記録とは</li> <li>・ 表記・記述…どう伝えるといいのか</li> </ul> </li> <li>③ 具体的な書き方を知る</li> </ol> <p>&lt;3日目（5コマ）&gt; 半日（担当：富井他）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 希望者に実践記録を書いてきてもらう</li> <li>② 実践記録の読み合わせを行う</li> </ol>		

- ・ 記述の仕方、表現方法について感想を出し合う
- ・ 実践自体の大切さについても議論する